

季刊

青春本棚通信 第34号



2025
冬

第11回松山市立中央図書館ビブリオバトル

▶



◆ 特集 ◆

第11回



『松山市立中央図書館ビブリオバトル』大紹介

- ◆ 青春ひとことLINE～図書館の人にきいてみた～
- ◆ 本好きのコーヒープレイク ～冬ごもりにピッタリな本～
- ◆ 図書館ダンジョン・エクスプローラー ～秘蔵図書探索～
- ◆ 図書館投稿のススメ ～青春本棚で投稿を紹介してみよう～

特集!!『第11回』

松山市立中央図書館ビブリオバトル』

9/14(土)、松山市総合コミュニティセンター第1・2会議室で**ビブリオバトル**が開催されました。今年は**中学生4名、高校生8名の総勢12名**が中学生の部、高校生の部第1組、高校生の部第2組の3部に分かれて、各部のバトル発表者たちがおすすめ本を紹介した後、『どの本が一番読みたくなったか』を会場に集まった全員で投票し、**チャンプ本**を決定しました。

出場したバトルたちの熱い紹介メッセージをお届けします！皆さんが読んでみたい本はどれですか？

チャンプ

中学生の部

済美平成中等教育学校 3年

路傍の石 (山本 有三/著)

谷本 詠さん



私はこの本を通して、物事を前向きに考えられるようになりました。主人公愛川吾一の直面する問題と、私が直面する問題を比べると私の悩みはちっぽけなものであると気付かされたからです。吾一はどんなことがあっても人を責めず、人を許し、自力で立ち直ります。その姿を私も見習うことにしました。すると、少しずつ前向きに考えられるようになりました。また、くじけそうになっても「こんな時、吾一だったら？」と頭の中で変換して自分の負の感情を吹き飛ばしています。

題名や表紙には固いイメージがあり、あまり興味が湧かないという人も多いと思います。私も初めは同じような気持ちでしたが、主人公一人一人の言葉の意味が分かったと、自分自身の考えを変えてくれる本だと思います。

また、良い話だけでなく吾一の幼少期の様々なエピソードなど、クスッと笑えたり、ドキドキするシーンなどもあります。ぜひ皆さんも手に取って読んでみてください。

チャンプ

高校生の部第1組

新田高等学校 1年

生きてさえいれば (小坂 流加/著) 徳永 棕太 さん



この本は青春恋愛の物語ですが、私は、作品内に出てくる「虐めや誹謗中傷、すれ違い」などの暗いシーンに注目して読んでほしいです。

作中にはもちろんいい人も沢山登場するのですが、それ以上に醜い部分の描写がしっかりしているので読んでほしいです。人の嫉妬心の先にあるものを知ることができます。

この本の著者は「余命10年」を描いた小坂流加さんです。小坂さんは、発症したら最後、15年のうちに94%の確率で亡くなると言われている「原発性肺高血圧症」になってしまいます。そんな、実質、余命宣告された小坂さん最後の作品、「自分がもし生きていれば」という小坂さん自身の想いや考えが詰まった一冊になっています。

チャンプ

高校生の部第2組

済美平成中等教育学校

菜の花食堂のささやかな事件簿

5年

(1)～(6) (碧野 圭/著)

青山 和加 さん



東京のとある町にある小さな飲食店・菜の花食堂。店主は優しくな見た目にたがわず、食べる人を幸せにする料理を次々に作り出す女性・靖子先生です。

靖子先生は料理教室も営んでいるのですが、帰ってすぐ真似できる料理を学べるとあっていつも大盛況。

そんな中、やってくる生徒たちは、さまざまな謎を持ち込んできます。靖子先生は、それを、おいしい料理と鮮やかな推理で解決していきます。

おいしいミステリーの短篇集です。

『第11回松山市立中央図書館ビブリオバトル』紹介本

今回発表されたバトルの**推し本**を紹介します。どんな本が取り上げられ発表されたのか、それぞれバトルの皆さんの推し本に対する熱を感じ取ってください。

中学生の部 告白

(湊 かなえ/著)

済美平成中等教育学校 3年
黒川 詩花さん



今回は、湊かなえさんの「告白」を紹介させていただきました。

この作品は、ジャンルとしてはミステリーに入ります。また、「イヤミス（イヤなミステリー）＝後味の悪いミステリー」であると言われることも多い作品です。

しかし、私の考えるこの作品最大の魅力は、後味の悪さではなく、人間の「憎悪」に気付かせてくれるところだと思います。

この作品では、許されないある罪を犯してしまった少年が出てきたり、その少年たちにいじめをしてしまったクラスメイトが出てきたりします。そして、この彼ら彼女らには、罪を犯してしまう「理由」があり、その「理由」は、私たちにもあるであろう、人間の憎しみゆえのものだったのです。

私はその事実、人間が怖くなると同時に、人間の裏の部分を知ることが大切であると感じました。

中学生の部 日々臆測

(ヨシタケシンスケ/著)

県立松山西中等教育学校 2年
金子 宗資 さん



この本に載っている「臆測」は、はたから見ると、生産性のない無駄なものだ。ただ、一度でいいから読んでみてほしい。1ページ1ページの話にとっても心を動かされると思う。この筆者の臆測は、どれも自分じゃ思いつかないものばかりだ。

例えば、筆者が遠くの方で屋根の上に立っている人を見ている場面がある。もし自分が筆者だったら「ああ…なんかしてるんだな」ぐらいにしか思わないだろう。しかし、この本では筆者はこう臆測している。

「ポテのM、できたてをお持ちしますので屋根の上でお待ちください」と言われた人なのかもしれない、と思いました。」

これを聞いて、多くの人の頭の上には「？」が浮かぶだろう。僕もその1人だ。この発想力、この想像力、この表現力。

やはり、ヨシタケシンスケさんの臆測を見ていると、とても面白い。この本にはこんなに面白い臆測がたくさん載っている。ぜひ読んでみてほしい。

中学生の部 世界は「」で満ちている (櫻 いいよ/著)

県立松山西中等教育学校 1年
大澤 俐乃 さん



皆さんはこの題名を聞いて「」の中に何を入れますか？ 登場人物たちが「」の中に何を入れてその中身がどのように変わっていくのか、それがこの本の読みどころです。

この本の主人公、由加は毎日学校が楽しい！というような女の子です。そんな由加は三学期の初日、あるウツサをきっかけにクラスから孤立してしまいます。そんな由加のそばにいてくれたのは幼馴染のゆうくん。由加はどんなことに気づき、どのような“楽しい”を築いていくのでしょうか…。そんなお話になっています。

ここまで聞いて、ただいま絶賛青春満喫中の学生さんたちは共感しやすい本なのではないかと思えます。青春はもう終わってしまったという大人も昔のことに想いをよせながら読める本となっています。

誰にでも世界が白から黒、黒から白へと反転するようなことがあると思います。それがどちらへ反転するものだったとしても、必ずあなたを救ってくれるはず。ぜひ、読んでみてください！！

高校生の部 第1組 三途の川のおらんだ書房

(1)迷える亡者と極楽への本棚

(野村 美月/著)

新田高等学校 2年

森 春華さん



おらんだ書房には謎があります。

1つは、おらんだ書房の建物が生き物であることです。お客さんの心を本棚に反映させたり言葉に反応して鳴いたりします。その様子がかっこいいです。

2つ目は、店主が唯一の生者であることです。全然情報は作中で明かされません。

この2つに注目しながら読むのも面白いと思います。この本は2巻まで出版されています。1冊につき6話載っているので、様々な個性を持つ死者のエピソードを全部で12話も楽しむことができます。

おらんだ書房だけではなく、三途の川の前にあるお店は他にもあります。どのお店の人も優しく個性豊かな人ばかりでこちらまで優しくなれそうな気持ちになります。人間はいつか死んでしましますが、死んでしまった後は、私はおらんだ書房の店主に「人生最後にして最上の一冊」を選んでほしいなと思います。

高校生の部 第1組
本好きの下剋上 全33巻

愛光学園愛光高等学校 2年

～司書になるためには手段を選んでいられません (香月 美夜/著) **喜田 亜佳莉 さん**



〈あらすじ〉 本が大好きな女子大生、地震で本も字もない異世界に転生しちゃった！

本作の魅力は、作り込まれた世界観と個性豊かなキャラクターです。異世界ものといえば、チート・ハーレム・やけに高い身分設定など、いわゆる「テンプレ」なルートをたどる印象が強いと思いますが、この作者さんの手の内にそんなご都合展開はありません。階級制度、政治、商売、さらには宗教観まで、ここまでがっつり固められたリアルな描写は、本好きの下剋上でしか味わうことができないでしょう。

背景を作り込むという特徴は登場キャラクターからも感じられます。主人公を取り巻く大人たちにはいったいどんな過去があって、どんな理念を持って動いているのか。そして本のない世界で主人公はどの様に生きるのか。ご自身の目でお確かめ下さい

高校生の部 第1組
時給三〇〇円の死神

松山学院高等学校 3年

(藤まる/著) **徳永 昊 さん**



この小説は、ヒロインの、「それじゃあキミを死神として採用するね」、から始まります。

主人公は戸惑いますが、死神として働くことを選びます。死神の仕事は「未練を残したままこの世に残り続ける<死者>をあの世に送ること」が目的です。この仕事は半年間、勤め上げればどんな願いも叶えてくれます。

主人公はこの仕事を通じて、人々の死に直面しながら、死ぬとはどういうことなのか考え、苦しみながら成長していきます。

高校生の部 第2組
ぼくは明日、昨日のきみとデートする

松山学院高等学校 2年

(七月 隆文/著) **楠野 栞菜 さん**



この本では、彼女と彼の昔のお話もあるのですが、発表した内容のように設定という壁があるため、読者も努力が必要です。この本の始めの方には、男の高校生の時の時間の間に彼の昔の記憶が入っています。中間では疑問が多くて集中して読まないで見落としてしまう事もかなりあります。

そしてラストぐらいに彼女のターンが来るのですが、そのターンのお話がいきなり今まで読んだ内容をつなぎあわせてくれます。なので、一ピースでもかけてしまうと、どうしてこうなったんだろうと思ってしまう人もいるかもしれません。そこがおもしろいところなんです。間違い探しをするように、何回も読み返して、パズルのようにすべてのパーツがそろったとき、つい涙がでてしまう。そんなお話です。

この本は、するめのように、噛めば噛むほど味がするので、一度読んでしまうと、目が離せません。よかったらぜひ読んでいただきたいと思います。今回のビブリオバトル全力は出しきれませんでしたが、私の発表が少しでもよかったと思ってもらえたらうれしいです。

高校生の部 第2組
ぶらんこ乗り

新田高等学校 1年

(いしい しんじ/著) **花崎 来未 さん**



今回のビブリオバトルでは、主にあらすじと弟、表紙や挿絵について語らせていただいたのですが、ここでは他にもう2つ紹介しようと思います。

まず1つ目は、主人公「私」の家族です。弟のほかにもお父さん、お母さん、おばちゃん、ゆびのおとという名前のついた犬がいます。お母さんが絵を描き、その額縁をお父さんが作るという美術に関する仕事をする両親。頑固で怒りっぽく、よく弟にいたずらされているおばあちゃん。元野良犬で人なつこいゆびのおと。

物語の中心は弟なのですが、この家族も物語に大きく関わってきます。特に注目してほしいのはおばあちゃんです。弟や物語の所々で関わってくることが多いです。弟の関わりでくすくす笑えるところもあるので是非読んでみてください。そしてもう1つは日記の表現です。まだ小学校低学年の弟のものなので、ひらがなが多い上に、時々間違っている所があります。また、弟が最後に書いたお話には目を見張るものがあります。この家族がむかえる衝撃のラスト、異変が起きはじめた生活の行く末とは、、、？是非ともご自分の目でお確かめください！

高校生の部 第2組
蜜蜂と遠雷

県立松山西中等教育学校 4年

(恩田 陸/著) **稲田 雪乃 さん**



この本は、恩田陸さんが12年の時間をかけて取材をし、構想し、執筆された作品です。

リアリティあるストーリーと、コンクールの空気感を文字から感じることができます。

また、登場人物も魅力的なので、必ず1人は好きな人物ができると思います。

ぜひ、読んでみてください。